

(重点テーマ)外部支援組織の充実・強化による労働負担の低減・規模拡大の推進

北海道

(その他のテーマ)自給飼料の拡大

酪農
(飼料)

(活用事業)施設整備事業

現状・課題

- 酪農家戸数の減少が継続
- 1戸あたりの飼養頭数を増加するためには、飼養形態の変更が必要
- 大規模化を図るためには、作業の外部化を進める必要



目指す姿

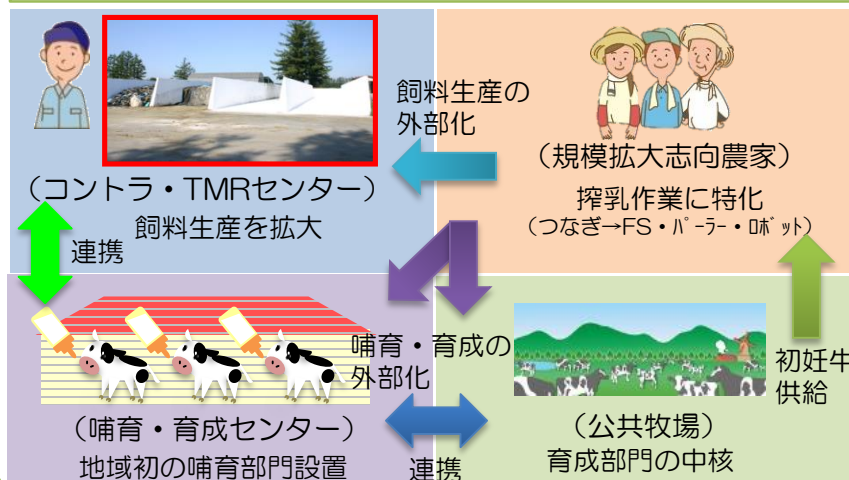
地域の担い手となる大規模農家を育成するため、大規模化に適した飼養形態を地域に普及・定着

規模拡大農家の経営安定を図るため、哺育育成や飼料生産作業、家畜ふん尿処理等の外部化を強化

行動計画

- ① 外部支援組織の充実を図るため、
 - ・ TMRセンター及びコントラクターの機能強化を実施(H28)
 - ・ 集中型家畜ふん尿処理施設を整備し、畜産環境問題への対応とリサイクルシステムを構築(H29)
 - ・ JAが中心となり哺育育成センターを整備し、地域で初めて6ヶ月齢未満の哺育部門を外部的化(H29)
- ② 育成部門の中核を担う公共牧場(既存)と哺育・育成センターの連携により、地域の初妊牛供給体制を強化
- ③ 大規模化する農家は、①・②の外部支援組織を活用し、搾乳作業に特化、フリーストール・パーラー・ロボット方式に転換。

畜産クラスター事業を活用し、飼料生産部門の機能強化を図るためバンカーサイロを増設。
(補助額:136百万円)



期待される効果 (計画ベース)

H30年目標

- ① 経産牛の増頭:1,722頭
- ② 生乳生産量の増加:18,682^ト
 - ・ 頭数増による効果
→ +15,877^ト
 - ・ 1頭あたり乳量の増加
→ +2,805^ト(+249kg/頭)
- ③ 1番草作付面積:221ha増



収益向上効果 (計画ベース)

地域の収益増加

→ H30: **2,267百万円**